

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、26～29℃台を示し、やや低めの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網――西彼地区では、ウルメイワシなどが1日1統当たり10トンの水揚げで、前週の3.3倍（前年を上回った）。五島奈留地区では、マアジなどが1日1統当たり2トンの水揚げで、前週の25%（前年を上回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり14トンの水揚げで、前週の2.8倍（前年を上回った）。
- イカ釣――スルメイカは、壱岐勝本地区では1日当たり5kgの水揚げで、前週の7%（前年を下回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり41kgの水揚げで、前週の27%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり150kgの水揚げで、前週の11%（前年を下回った）。
- 定置網――五島有川地区では、マアジなどが1日1統当たり667kgの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり55kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ケンサキイカなどが1日1統当たり227kgの水揚げ。
- 一本釣――北松宇久地区では、ヒラマサが1日当たり153kgの水揚げで、前週の2.8倍（前年を上回った）。
- トビウオ船曳――北松生月地区では8月27日より船曳漁が始まり、小トビ主体で1日1統当たり963kgの水揚げ（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（8/25～8/30の6日間）沖合イカ釣（船凍船）は、引き続き大和堆付近で操業。
沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～隠岐海峡～鳥取沖～兵庫沖～能登半島沖～新潟沖～山形沖で操業。

鳥取県西部（沖合船）5日延34隻、総計1,526箱、1航海最高202箱、平均44.9箱。
スルメイカ（20～40入）1,320箱、ケンサキイカ（2～3立）206箱の混獲となった。
（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第3-22号 小トビ（トビウオ未成魚）飛翔目視調査結果【1】」、「第3-23号 長崎県周辺海域の海面水温」を公表しました。漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>